



農繁期前に農機具の整備を！

農繁期に思いがけないトラブルが発生し、作業が大きく遅れたり、思わぬ出費につながる可能性があります。忙しくなる前に「清掃・点検・整備」を済ませトラブルを未然に防ぎましょう。

その1. まずは清掃・注油。次に点検！

清掃は点検整備の出発点です。清掃の際に、ヒビ、サビなどの問題箇所を早期発見できます。清掃後には可動部への注油やグリスアップをしましょう。その後、可動部が適切に作動するか、劣化がないか点検します。

- 駆動部 → 異音や振動がないか？
- ベルト・チェーン → 張りは適切か？ 劣化はないか？
- ホース類 → ひび割れなどの劣化がないか？
- エンジンやチェーンケースなど → 油のにじみや漏れがないか？
- タイヤ → 空気圧が適正か？ 劣化はないか？

※ 原因不明の異音や振動、オイルシールからの油のにじみなど作業が難しい箇所は、農機センター・販売店に依頼しましょう。



ネズミが侵入し、配線をかじっていたなど思わぬトラブルもあります。まずは、清掃点検で不具合がないか確認しましょう。

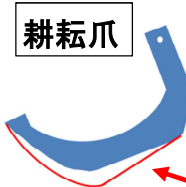
その2. 耕耘爪、こぎ歯は早めに交換！

摩耗が進むと作業効率が低下します。適切な時期に交換しましょう。

- コンバインこぎ歯 → 摩耗もしくは変形したら交換（枝梗付着・こぎ残しが出たら交換）
- ロータリ 耕耘爪 → 摩耗もしくは破損したら交換



こぎ歯の摩耗は、こぎ残しなどの原因になります。



耕耘爪が摩耗すると、すき込み性能が悪くなり、爪の脱落の原因にもなります。

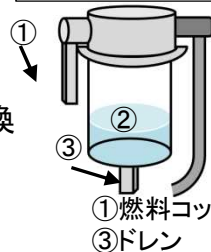
摩耗部分

その3. エンジンまわりも忘れずに！

エンジンのメンテナンスで、農機の性能を保ち寿命を延ばせます。適切な時期に整備しましょう。

- エンジンオイル → 100時間(初回50時間)を目安に交換
- エアフィルタ → 定期的に清掃し、300時間を目安に交換
- 冷却水 → 残量確認し、不足がある場合は追加(1~2年を目安に交換)
- 水抜き → 油水分分離器※から定期的に水抜き(※燃料フィルタと一体になったもの、独立したものがあります。)

油水分分離器



燃料コックを閉め、ドレンがある機種は下部パイプより排水、ない機種はカートリッジを外し水を抜きましょう。

①燃料コック ②カートリッジ ③ドレン

農作業事故を予防するために

自分でできるところは点検・整備して、作業が難しい所は、農機センター・販売店へ。なお、整備時は作業帽・作業着など、作業に適した服装で作業しましょう。3月1日~5月31日は春の農作業安全対策の重点期間となっています！